

# 電動ジギングで挑戦!

文・伊藤まき  
写真・山本浩

数年前からサケのジギングが  
じわじわと盛り上がりつつある網走沖で  
今季からライセンス制がスタート。  
ポイントの水深は100m前後で、  
電動タックルの本領が発揮されます。  
これは行くしかない!と遠征しました!  
※記事内に出てくるアイテムは、すべてシマノ



今年度は9月1日~30日まで、網走・斜里海域は網走海区漁業調整委員会発行のライセンス取得船舶に乗り、秋サケの船釣りが認められた。ピンク色の章旗にテンションが上がる

## 秋さけ船釣り

# ライセンス制in網走・斜里

### 委員会指示による令和4年度ライセンス制度の概要 【網走・斜里海域】

- ライセンス隻数: 遊漁船30隻以内、PB30隻以内
- 秋さけ船釣り禁止期間: 9月1日~10月31日
- ライセンス期間: 9月1日~9月30日
- 定置網付近での船釣り禁止期間: 9月1日~10月31日
- 釣獲上限尾数: 1人1日あたり5尾



### 新たな規制海域の誕生

今年もカラフトマスは不漁が伝えられ、漁獲量は過去最低だった昨年を下回る見込みとなり、釣りでもよい話は聞かれませんでした。一方、サケは昨年を上回る来遊予測が発表され、期待が高まります。

### タコベイトの威力?

私はまずハーフピッチのジャークを入れながら、底から5mくらいのレンジを丁寧に探ることに。そしてすぐに朝のラッシュユタイムがやってきました! 隣、胴の間、トモと次々にロッドが曲がり、歓声が上がります。

電動リールの画面表示はライン長96.1、巻き上げスピード16を表示。網走海域のポイントは水深100m前後。途中からヨーヨー釣りがメインになり、PICK UPのスピードは重視しなかった



約30分後、ポイントに到着。すでに沖にはサケねらいの遊漁船が浮かび、ヒットシーンやタモ入れする光景も目撃。いやがうえにも闘志がわいてきた



日の出の約20分前、午前4時45分に出港。当日の網走川河口付近の船着場は、以前訪れたときよりも船が多く、釣り人らしき車もたくさん見られた

今季、オホーツク海のサケ釣りに大きな動きがありました。これまで知床の斜里町ウトロ海域で行なわれていた『秋さけ船釣りライセンス制』が、今年度から網走・斜里海域でも実施されることになったのです。それに伴いライセンス制の概要が別項のように定められました。

### 水深は100m前後

日本列島を縦断する台風14号の接近を受けて危ういところでしたが、海神様へ捧げた祈りが通じたよう。9月17日の午前4時過ぎ、網走川河口に近い道の駅『流

ながらボウズ。そのときお世話になった『第五十八妙宝丸』の船長、槻間哲也さんに連絡を取ることに『ライセンス承認船になったので、ぜひどうぞ』とお返事。9月中旬の3連休にわずかながら空きがあると聞き、すぐに予約を入れました。

水街道網走』の少し上流にある船着場へ。すでに辺りにはサケ釣りの人が集まっていました。槻間船長と挨拶をかわすと『最近はずいぶん早く、3時間くらいで戻ってくる船もあります』とのこと。ワクワクしながら船に乗り込みました。

お客さんの3〜4割はジギングで、あとは仕掛け釣り。ちなみに後者は底釣りが中心になり、3本バリのドウツキ仕掛けが使われます。水深は100m前後なので、ジグは250g〜320gを用意。午前5時前に出港し、約30分後ポイントに到着。お客さんは8

人で、7人がジギング。片舷流しで釣るスタイルになり、私の釣りはミヨシ。けっこうなウネリがありますが、酔い止め薬がよく効いているのか心配はなさそう。とりあえずジグは1昨年、同海域で10kgアップのマダラを釣った『サーティンウエバー』290gのブルーピンクを選びました。

「水深106mです。絡まらないようにジグを落とすタイミングは、なるべく隣の人と合わせてください。では、どうぞ」と船長からのアナウンス。皆いっせいにジグを投入しました。





タナを細かく探るべく、小さいシャクリで誘うのがコツ。シャクリ後にストップを入れるのも有効らしい。サクラマスねらいで定番のヨーヨー釣りでねらう



かずにロッドティップの振り幅30〜50cmのシャクリを繰り返す。シャクリを入れてロッドティップを下方に戻したら、2秒くらいストップを入れて待つ」というもの。ストップがキモらしく、食わせの間にしているよう。

船長によると、この方は乗るたびよく釣るお客さんだとか。タコベイトは付けておらず、前後のフックは通常のジギング用。魚が掛かるのは「ほとんどフロントフックです」と言っていました。

徐々に釣り方を理解してくると、コンコンという軽いアタリを得て合致します。グググッと口



1人、また1人と定数に達し、忙しそうに動き回っていた中、乗りさんも落ち着いたようす。中乗りとは船長の助手で、タモ入

一度掛けたが、巻き上げ時にバラシ。かなり凹むも、気を取り直して頑張った結果、再び掛かってくれた。今度こそ逃がさない！アワセもしっかり入れた



シーラミス、サケジラミ、ウオジラミとも呼ばれる寄生虫。メスと考えられる虫体には後端に1対の細く長い器官(卵嚢)があるとか。私にはいつもアオリイカに見える

一尾の釣果であっても大満足。自然と目を細めてニコニコとえびす顔になってしまう。まあ、もともと細目なのだが(笑)。来季はイクラたっぷりのメスを釣りたい!

### 最後の最後に……

ツドが海面に突き刺さってヒット! タッチドライブを押し、スピード15で巻き上げを開始します。途中、ふわっと重さがなくなりバラしたと思ったのが、「サケは食い上げますから!」この声。ラインテンションが希薄になっても油断できません。さらに巻き上げる時、たしかに重さを感じた。しかし、この魚はもう少しというところでバラしてしまいました……。

れやオマツリを解いたり、魚の血抜きをしたり釣り人のお世話をしてくれる人。今回の中乗りは船長のご子息。来季は社会人だそうですが、社会人顔負けの行き届いた対応には感心するばかり。イケメンのせいもありますが、しばし見惚れてしまいました(笑)。中乗りがいると釣りに集中できるので、ビギナーは本当に助かります。息子さんにまだ釣れていない

釣り船はざっと30隻以上。これほどの大船団を見るのは久々。昨年8月、ブリ釣りで世話になった『幸神丸(こうしんまる)』も発見、うれしかった!



ブリ用のタックルで挑み、初めてのサケジギングを満喫していたうさんの長男。岸からは何尾もサケを釣っているだけにやりとりは慣れたもの



乗船者は8人。片舷流しで釣るため、隣との感覚は狭い。オマツリは仕方ないとはいえ、ジグや仕掛けを落とすタイミングを隣と合わせて合わせるなどして、なるべく回避したい

す。魚体はどれもウロコが剥がれ落ちそうな銀じか。沖ならではと見えど、見るからに美味しそう。

次は私の番に違いないと真剣にジャーク。今か今かとアタリを待ちますが、いっこうに反応ナ

シ。そんななか、親子でサケジギング初挑戦という隣のうさんは2尾目をゲット。最初から気になっていたのですが、270gのジグのテールにはウキルアー用タコベイト付きフックを装着し、ソウダ

ガツオのエサも付けていました。サケ釣りといえば投げや船のドウツキ仕掛け、ウキルアーでもタコベイトは超定番。やっぱりサケはタコベイトが好き? うさんのジグを見るとフロントにはジギング用のアシストフックを装着していましたが、サケが掛かるのはテールのタコベイトフックばかり。ほかにもタコベイトを付けていた方がいましたが、ほとんどがタコベイトフックを食ってやるよう。いわゆる「バイトマーカー」として機能しているのかも。

不安に感じていると、モソモソとしたアタリ。ウキルアー釣りの前アタリはコツコツとくるので少し期待しましたが、あがってきたのはカジカ。その後もフグが遊んでくれるだけで本命がきません。私のようなつぶさに観察していたのか、「まささん、グローのジグありますか? 今日はグローが当たっています」と船長からアドバイス。腹が妖しく光るジグに交換することにしました。

### サケもヨーヨーがハマる!?

ジグを交換中、うさんから「タコベイトありますから、使うようだったら言ってくださいね」とい



北海道はフグ類の漁獲量が全国でトップクラス。とはいえ、釣りではエサ取りとして知られる外道であり、あまり歓迎できない……



底釣りでおなじみの外道といえばカジカ類。ただ、これから鍋など温まる料理が美味しい季節になるので、それなりの大きさならキープしていただきたい

うありがたい言葉。また、「アタリがあるのは底から50cm〜1m。その層でリールを巻かず、軽くシャクリを入れてみるとガツンと当たります」と教えてくれました。

そんな話を聞いて頭に浮かんだのが、サクラマスのジギング。「マスはタナを釣れ」という格言が知られ、回遊しているタナが分かれれば、そこでシャクリを繰り返す「ヨーヨー釣り」が必釣パターン。同じ鮭鱒属だけにサケも有効な釣り方は同じなのかも……。

今度はジグにタコベイトを装着

し、ヨーヨー釣りを実践。そんななか、よく釣っていた胸の間の人は5尾の定数に達したようで、釣り座から退いて仲間にアドバイスを送っています。その内容は「タナは底から少し上で、リールを巻



ジグのテールにウキルアー用のタコベイト付きフックを付けている人が多かった。バイトマーカーとして機能するのか、タコベイトががっちり食ってやるようだ





【使用タックル】

**ロッド=オシア EJ B63-4**  
 ●全長:1.91m(6'3")  
 ●継数:2本  
 ●自重:172g  
 ●ジグウエイト:MAX300g  
 ●PEライン:MAX4号  
 スピード、パワーと粘りを両立させ、スパイラルガイド仕様で操作性が高いロッド。このモデルは水深がバーチカルなら~120m+α、ドテラ流しなら~100m+αに対応。魚のサイズは青ものなら~15kg+αまでイケる

**リール=ピースマスター1000EJ**  
 ●ギア比:5.3  
 ●最大ドラグ力:15.0kg  
 ●自重:700g  
 ●最大巻上長:70cm/ハンドル1回転  
 ●PE糸巻量:3号-400m  
 EJモード搭載の電動ジギング対応モデル。巻き上げ時のスピード調整が親指1本でコントロールできるNEWタッチドライブを採用。ラインは『オシアEX8 PE』3号、リーダーはフロロカーボン30lbを2ヒロ接続



【ヒットジグ】

『オシア スティンガーバタフライ サードインウェーバー』174mm・320gのキャンディベイト。前後スライド、バックスライド、ウォプリングという3種のフォーアクションでアピールするスロー系ジギング用。フロントをやや絞ったサイドフラット形状により、ジャーク時の抜けが軽いのが特徴。フックは『オシア アシストフックセット ベイトジギング近海青物』



後半はウキルアー釣りに市販されている、タコベイト付きフックをテールに装着してヒットにつなげた

のう、私まだなんですけど、とは  
 言えぬ……。

潮止まりを挟んでアタリが遠のき、いよいよ焦りだした9時過ぎ。顔が海よりも青ざめていくのを感じていると、「いい群れがきました、これは釣れますよ〜！」と今日一番の威勢のよい船長の声。その後、早朝のようにバタバタと釣れだし、底から1Mでヨ〜ヨ

の何人か  
 尋ねると  
 「釣ってない人はいな  
 いです」と  
 の返答。あ  
 のう、私まだなんですけど、とは  
 言えぬ……。

ー釣りをしていた私にもヒット！  
 サケの力強い引きを存分に堪能し、無事タモに収まったのはブナが入りかけた賑つい顔のオス。タコベイトフックをがっちりくわえていました。船長から「まさきさん、釣れてよかったですね！」と祝福の声が届くと、私は感激して銀毛のように目を輝かせて喜びました。

帰り際、ほかの遊漁船と連絡を取り合っていた船長から「今日はどこもあまり釣れなかったようで、皆さん成績よかったですよ」とのアナウンス。それを聞いて乗船者の表情は明るくなりました。

### 電動で集中力を持続

実釣の間、何度かUさんから「電動リールいいですね〜」とやらやましがられました。手巻きのリールで水深100m前後を釣るのは、腕力に自信のある男性でもけっこう大変みたい。ましてこの日はフグやカレイ類が掛かることが多く、何度もジグの回収をしなければならぬ状況。Uさんは回収中「地獄巻きです



なめろう

Uさんに教わったのをアレンジ。三枚におろし、アニサキス症予防に-20℃以下で24時間冷凍後、解凍して皮を引く。身10に対し、生姜、ネギ、味噌、オリーブ油各1、ニンニク、醤油各1/2ほどの割合にする。身と薬味を細かく切ってたたき、調味料を混ぜて完成。味の一体感が旨い。卵黄を落とすとコクが増し、丼にしても美味



湯漬け

塩焼き(三枚におろして切り身にし、身の重さに対し塩1%を振り30分置き、グリルで焼く)と好みの具材(海苔、胡麻など)を温かいご飯に載せる。白だし、熱い湯を1:10ほどの割合で合わせて回しかける。さらっといただきたい



ポワレ

魚を塩焼きで焼く前までと同様に調理し、水気をペーパータオルで充分取る。フライパンにオリーブ油(一切れに対し、大さじ1)を引き、皮を下にして焼き、フライパンを傾けて身に油をスプーンでかけて火をとす。焼き色がつけば返して余熱で仕上げる。香ばしさがそる一品

### ◎アキアジ料理二品

……自分もモーターが欲しい」と苦笑いし、とても辛そうでした。少ないチャンスをもノにするには集中力を持続させるのが第一。とすると電動タックルが頼りになります。

取材時、ジグのカラーはグロウ系がハマリ、ブルーピンクやオレンジ、レッドなどを配色したゼブラグロウ系で実績が上がっていますが、「グロウを嫌う日もありますが」とは船長。タコベイトの有無が釣果に与える影響も気になるところ。いずれにしてもサケジギングはまだ黎明期。いろいろ試して釣れるパターンを探るのも面白いですね。ちなみに仕掛け釣りは今季、白色のイカベイトが流行り、道東では品薄だとか。仕掛け釣りの情報も参考になるかも。

サケとマス釣りはよく似ていて、どちらも熱烈なファンが数多くいます。網走・斜里海域のライセンス制は9月30日で終了しますが、来季の釣りはもう始まっています。今回同船していたお客さんが早くも来季の予約をしています「驚きでしたが、船長によると「もう8割方埋まっています」とのこと。早めの予約をおすすめします。10月31日までサケの船釣りは禁止期間に入りますが、来季はライセンス期間が延長されるとを願っています！



第五十八妙宝丸 TEL.090・1523・6955

以前からサケジギングを試してきた船長の機間哲也さん(右)、息子の拓斗(左)さん。ジギングの料金は1人10,000円。ライセンス制実行協議会への協力金として1,000円も納付する。網走川河口付近にある道の駅「網走流水街道」(網走市南3条東4-5-1)に近い、やや上流の船着場が集合場所